

# 2019年3月クルディスタン報告書

## Reporta Kurdistanê Adarê 2019'ê



アクレークルディスタン地域(イラク領)



コバニーロジャバ(シリア領)



アメドー北クルディスタン(トルコ領)



ケルマンシャーー東クルディスタン(イラン領)



埼玉ー日本

**Newroz Pîroz Bê!**

**ネウローズおめでとう!**

一般社団法人 日本クルド友好協会

## 南クルディスタン（イラク北部クルディスタン地域）

## Başurê Kurdistanê



## 政治動向

## ▶停滞する新政権樹立

クルディスタン地域政府(KRG<sup>1</sup>)の新政権樹立は、3歩進んで2歩下がるといった具合だ。クルディスタン民主党(KDP<sup>2</sup>)は先月ゴラン<sup>3</sup>(変化運動)とは合意に達した。肝心のクルディスタン愛国者連盟(PUK<sup>4</sup>)がKDPに強い不信感を持っており、新政権樹立交渉が進まない。今月の交渉は大きな一歩から始まった。KDPとPUKは4日、ヘウレルで4カ年の政治協約に合意した[4日、ルダウ]。2005年以来踏襲されてきた合意の再確認である。2005年時の合意内容とはKDPがKRG大統領職を担い、PUKがイラク大統領職を担うというものである。PUKからゴランが誕生する等パワーバランスの変化があった。またKDPがイラク大統領職を一時要求したことで有名無実になされていた。内戦と長年の対立克服の原点になった協約を蔑ろにされたことが、PUKのKDPに対する不信の原点であった。クルド系メディアが報じたように新政権樹立の協議を加速させる進展であることは間違いない。

PUKはKRG議会の議長職を獲得することになっていたが、先月の議会再開会日にボイコットしたことでKDPの臨時議長が選出された。PUKが議長候補者を指名し、現職のKDP臨時議長と投票で選出することになった。PUKは6日、週内にKRG議会議長候補を指名するとしていた[6日、バスニュース]。7日に議長

1 英語名 Kurdistan Regional Government の略。クルド語では、Serokayetiya または Hikûmeta(前者がクルド語、後者がアラビア語で政府の意) Herêma(地域) Kurdistanê。参照：[クルディスタン地域政府大統領府公式サイト](#)  
 2 英語名 Kurdistan Democratic Party の略。クルド語では、Partîya(党) Demokrata(民主) Kurdistan を略して PDK。また単に Partîとも呼ばれる。  
 3 クルド語では Tegera(運動) Goran(変化)。2009年に PUKより分離してできた政治勢力。クルディスタン地域では第3の規模を誇る。  
 4 英語名 Patriotic Union of Kurdistan の略称。クルド語では、Yekîtiya(統一) Nîştmanîya(民族主義者) Kurdistan を略して YNK。また Yekîtiとも呼ばれる。

候補選出のための党内会議を延期すると発表した[8日、バスニュース]。10日にKRG議会で各党派から代表者が集まり法制委員会設立のため会議が行われた[10日、ルダウ]。PUKの代表者もこの会議に出席した。この場においてもPUKは議長候補者他重要な決定事項を明かさなかった。KDPとPUKそれぞれの代表団は12日、改めてハウレルで会談を行い新政権樹立に向け協力していくことで合意した[12日、クルディスタン24]。しかし、PUKは新たな条件をKDPに突きつけた。現在PUKのクバッド・タラバニが務めるKRG副首相職、かつてPUK政治局トップのコスラト・ラスルが務めたKRG副大統領職、現在KDPのカリム・シンジャリが務める内務相職も要求したとされる。PUKは16日、スレイマニで記者会見を開き新政権樹立交渉再開に向け準備をしていると発表した[16日、日報]。前述の「条件」同様KDPへの要求も口にした。KRGの意思決定の透明化から経済の安定化、また安全保障分野に至るまで合意が必要だとした。加えて、イラク中央政府とも石油収入配分や公務員給与の問題で交渉し合意する必要があるとも釘を刺した。石油とはキルクークにおけるPUKの権益だ。以上を要約すればPUKを無視して新政権樹立を拙速に進めることなかれということである。

PUKが泥沼に沈み込んでいく間もKDPと他党の交渉は続いた。KDP議員によれば、大統領法の改正においてゴランと概ね合意に達しておりPUKが同意すれば議決する[18日、バスニュース]。ゴランは大統領選挙を国民投票ではなく議員投票にするよう要求してきた。KDPはこの要求に妥協した格好だ。PUKは19日、スレイマニにKDP代表団を招き会談を行った[19日、バスニュース]。KDP、PUK双方とも交渉再開で合意したと発表した。KDPとPUKの代表団は24日、ハウレルで再度会談を行ったが共同記者会見で双方とも追加の交渉が必要だと発表した[24日、NRT]。その交渉は27日実施されたが結局合意無く終了した[27日、ルダウ]。またしてもKDPとPUKの不和解消は翌月に持ち越されることとなった。PUKは内務相職に固執していた[27日、ルダウ]。KDP側は事前にその要求を拒否していたが、PUK側は主張を変えなかった。KDP執行部メンバーは8割がた合意できていたと語った。KDP指導部内にはもはやPUKのわがままには付き合いきれないと苛立ちが高まる。KDP寄りメディアはトルコで投獄されているクルド系政党人民民主党(HDP<sup>5</sup>)元共同代表セラハッティン・デミルタシュにインタビューを行った。デミルタシュはその中でマスルール・バルザニにクルド団結のために努力が足りないと苦言を呈した[5日、バスニュース]。デミルタシュは詳細を語らなかったがKRGの政治的不和を遠回しに批判したと見られる。表面上は度々拒否権行使をするPUKが新政権樹立を遅らせているように見える。先の選挙での疑惑をうやむやにするKDPの姿勢にも問題が無いとは言えない。次期大統領ネチルワンと次期首相マスルールはデミルタシュの言葉をどう受け止めるか。

## ▶野党動静

ゴランが新政権に参加を表明したことで有力な野党勢力は形成されない見通しだ。ゴランは着々とKDPと合意を積み重ねている。少数野党のクルディスタン・イスラム連盟(通称:協会)も新政権参加を表明しKDPと合意を交わしている。残りの野党はイラク中央と連携するか、ただ存在しているかである。

<sup>5</sup> トルコ語の党名、Halkların(諸人民または国民の) Demokratik(民主主義) Partisi(党)の略。

新世代指導者シャスワル・アブドゥルワヒドは4日、[スレイマニで記者会見を行い80人以上の党員が逮捕されたと発言](#)した[4日、NRT]。アブドゥルワヒド自身も国家侮辱罪の疑いで前日裁判所に召喚されていた。アブドゥルワヒドはしばしばKDPとPUKの権力独占を激しく批判しており、イラク中央やイランと深い関係を持つ。記者会見を行ったのと同日、イラク中央の有力党派改革連合の会議に参加した。新世代系メディアは[アブドゥルワヒドがイラクの国益と統合を尊重を示した](#)という、同党派を主導する「祖国の英知運動」関係者の言を伝えた[6日、NRT]。クルディスタン・イスラム協会(KIG<sup>6</sup>)は新世代に同調しながら、先月新政権参加も検討することを明らかにした。12日の議会において、[KIGは新世代と共に議決をボイコット](#)した[12日、日報]。また、PUKも議会をボイコットした。PUKは先月KIGの代表を迎え会談を行った。今後PUKと協力関係をとるのかは不明である。

## キルクーク Kerkûk

### ▶ペシュメルガ帰還への道

アメリカ軍の後押しもありペシュメルガとイラク軍の対IS共同作戦実施の機運が生まれている。先月、ペシュメルガとイラク軍高官同士の共同作戦会議が立ち上げられた。一方でペシュメルガのキルクーク再駐屯についてイラク側は拒否している。ペシュメルガ副参謀長カラマン・カマル准将は4日、クルド系メディアの取材に対し[ペシュメルガとイラク軍双方の高官が係争地を訪問](#)したと明かした[5日、NRT]。ペシュメルガとイラク軍は以下の3段階でキルクーク共同防衛体制を確立するという。

1. アメリカ軍のK1基地にペシュメルガとイラク軍の共同作戦室を設置
2. 係争地に駐留するペシュメルガとイラク軍の部隊を段階的に削減
3. ペシュメルガとイラク軍が共同でキルクーク市と係争地を防衛

段階2から3に大きな困難がある。キルクークはイラク軍ではなくイラン支援下の人民動員軍の支配下にあるからである。イランがどのような介入を行うか想定できない。

### ▶PUKの不満

キルクーク問題はKDPとPUKの不和の中心にある。キルクークはPUKにとって特別な権益である一方、KDPにとっては「占領された油田」に過ぎない。PUKのイラク国民議会議員アラ・タラバニは12日、[クルド系メディアのテレビ番組に出演しキルクーク問題におけるKDPの姿勢を批判](#)した[12日、NRT]。KDPはイラク議会で第4位の勢力を誇る。アラによればKDPはキルクークを人民動員軍のフロント政党との交渉材料にしている。それゆえPUKは新政権樹立を遅らせるような措置に出ざるをえないということだ。別のPUK所属のイラク国民議会議員は15日、[党派闘争がキルクークの正常化を阻害している](#)と語った[16日、NRT]。彼によればKDPはキルクークの正常化を最優先にしており、キルクーク市内での市政評議会の招集を後回しにしている。

<sup>6</sup> クルディスタン・イスラム協会の英語名、Kurdistan Islam Groupの略。クルド語では、Komelî(協会) Îslamî(イスラムの) Kurdistanの略。

## シエンガル Şengal

シエンガルは2014年にISが奪取し多くのエジーディ(ヤジーディ)女性が性奴隷として連行された悲劇の町である。2015年にはISは掃討され徐々に難民の帰還が進んでいる。シエンガル解放にはPKKの指導で設立されたシエンガル抵抗隊(YBS<sup>7</sup>)が大きな役割を果たしたことから、山地は同勢力の支配下にある。YBSは人民動員軍含めイラク中央側勢力とは友好関係を保つ一方、PKKが関与することからKDPとは対立する。難民帰還にも暗い影を落とす。外国人ジャーナリストは力の空白がエジーディ難民の帰還を困難にすると指摘した[3日、アルジャジーラ]。さらなる混沌が生まれ得る事態が生じた。

17日、協力関係にあるはずのYBSとイラク治安部隊が衝突した。PKK系メディアによれば、YBSのメンバーが乗った車がイラク警察の検問を通過しようとしたら銃撃された[17日、日報]。双方応援も駆けつけて両部隊の衝突に発展した。YBSとイラク治安部隊ともそれぞれ2名の死者を出したとされる[18日、NRT]。イラク治安部隊は19日には再度YBSとイラク治安部隊の衝突が発生した[19日、クルディスタン24]。イラク治安部隊は拠点を開け渡すよう勧告したがYBSはこれを拒否し戦闘が再開された。双方に多数の負傷者が出てイラク側は死者1名を出した。イラク側はYBS事態の早期收拾を図った。2回目の衝突が発生した19日夜、イラク首相マフディは記者会見を行い事態は收拾されたと発表した[20日、ルダウ]。イラクは現在YBSに妥協せざるを得ない事情がある。最初の衝突の翌日、イラク軍参謀長中將ウスマン・ガンミはシリアとの国境を再開通させる日は近いと発言した[18日、イラクニュース]。シエンガルはシリアへ至る重要拠点であり、KDPに渡すわけにはいかない。

## トルコの侵略行為

トルコはPKK掃討を名目にイラク領内に進駐し多数の基地を設置している。PKKはイラク中央政府やKRGに代わりイラク領内でゲリラ戦を行いトルコ軍の侵略行為に抵抗する。PKKは16日早朝からソラン近郊のブラドスト山のトルコ軍基地を攻撃した[16日、ルダウ]。トルコ国防省は同日2人のトルコ兵が戦死したことを認めた[16日、アナトリア通信]。PKK広報は同日に3つの作戦を同時実行し合計で23人のトルコ兵を殺害したと発表している[17日、PKK]。PKK発表の数字はどんぶり勘定であることを考慮しても、トルコ軍がイラク領内の作戦で戦死者を公式発表したことは大きな戦果だ。

トルコは大きな反撃に出た。トルコ軍は27日、前の週にPKKの本拠地カンディル山付近でPKK指導部の重要人物4人の殺害に成功したと発表した[27日、アナトリア通信]。トルコ側は国家情報機構(MIT<sup>8</sup>)の諜報活動の成果であることを強調する。PKKは現在MITの諜報員を捕虜にしており、それはトルコ政府内ではタブーとなっている。MITは今回の手柄で少しかけ失点を取り戻した。

7 クルド語名、Yekîneyên(部隊) Berxwedana(抵抗) Şengalの略。

8 Milli(民族) İstihbarat(情報) Teşkilatı(団体)の略

## ロジャバ (西クルディスタン、北シリア)

## Rojavayê Kurdistanê



## ジャジーラの嵐 BAGERA CIZÎRÊ

## ISの壊滅

人民防衛隊(YPG<sup>9</sup>)が主導する北シリア連合軍のシリア民主軍(SDF<sup>10</sup>)が進めるIS掃討作戦「ジャジーラの嵐」は最終段階に達している。ISは小村バグズに僅かに立てこもるのみだ。ISの抵抗力は既に失われており後は如何に市民の犠牲を少なくするかの戦いである。

SDF報道官ムスタファ・バリは5日、バグズから3000人を避難させるための措置を取っていると発表した[5日、ルダウ]。7日には多くの戦闘員と市民がSDFに降伏したと伝えられた[8日、シリア人権監視団]。降伏期間が終わればまた戦闘が再開される。SDFは10日夜作戦を再開し、現地メディアはバグズ方面に閃光や漂う硝煙臭を確認した[10日、ハワルニュース]。ISは18日包囲を破ろうと反撃を試みたがSDFの速やかな対応により撃退された[18日、ハワルニュース]。同日SDFは北方からバグズに突入した[同上]。そしてISに最後の降伏の機会を与えた[18日、シリア人権監視団]。多くのIS戦闘員はもはや抗戦を諦め21日までに3000人以上が降伏した[21日、シリア人権監視団]。アメリカ大統領トランプはバグズの戦闘が終了したと発言した[22日、ロイター]。この後も僅かな抗戦派テロリストが抵抗を続けた。SDF報道官バリは23日、バグズ東方で激戦が続いているとメディアに明かした[23日、ロイター]。そして同日、バグズに我が軍の旗が翻ると勝利宣言を行った[23日、SDF]。しかしその翌日も洞穴等に隠れたIS戦闘員との戦闘が続いていると報じられた[24日、シリア人権監視団]。

<sup>9</sup> 人民防衛隊のクルド語、Yekîneyên(部隊) Parastina(防衛) Gel(人民)の略。

<sup>10</sup> シリア民主軍の英語名 Syria Democratic Forces の略。彼ら自身はアラビア語名 Quwwat(部隊) Suriyâ(シリア) al-Dîmuqrâîyia(民主的)の略 QSDをよく用いる。またクルド語では Hêzên(「力」すなわち軍の意) Sûriya(シリア) Demokratîk(民主的)を略して HSD と呼ばれる。

AFP のカメラマンは IS 戦闘員退去後のバグズに入り荒涼とした光景を撮影した[24 日、AFPPhoto]。



IS は降伏前にやぶれかぶれで人間の盾戦術に出たため無駄な犠牲が発生した。全体的に見れば SDF は IS が態勢を整え直し余地を与えるにも関わらず、激戦の合間に必ず降伏、非戦闘員の退去期間を設けたように市民の犠牲を最小にすることに気を配っていた。IS の卑劣な戦術 SDF に市民の犠牲を強要した。エルドアン政権寄りメディアは「[アメリカが支援する PKK が虐殺を行った](#)」と報じた[21 日、新たな夜明け]。



トルコ人たちは SNS 上で「#BaghuzdaKatliamVar(バグズで虐殺があった)」というタグで反クルドのプロパガンダを投稿した。エルドアン支持派のトルコ人は IS によるエジーディの虐殺は無頓着だがテロリストとその家族の犠牲には非常に敏感である。

IS はこれまで様々なシリア内部の対立関係を利用し勢力拡大・維持をしてきた。トルコによるクルドへの戦争開始の危機は IS 残党にとって格好の活動機会を与える。IS は暗殺やテロによってクルドを側面から脅かす存在としてトルコにとって利用価値があるからだ。今後の IS の主力は潜入分子だ。イタリア出身の IS 捕虜はメディアの取材に対し、[IS は潜入分子による反撃を企んでいる](#)と語った[10 日、ロイター]。IS の「置き土

産」も市民生活を回復させる上で重大な問題だ。SDF は今月初頭の時点で**バグズとその付近には多くの地雷が埋設**されていることを明かした[3日、故郷]。IS は撤退時に即席爆発装置 (IED<sup>11</sup>) を残していくことで知られる。SDF が勝利宣言した 23 日に、**NBC 記者が乗る車に IED が爆発しドライバーが死亡するという事件**も起きた[24日、ハーレツ]。

## IS 捕虜問題

SDF は IS を壊滅させる代償として、これまで追放で対応してきた IS 戦闘員とその家族を捕虜として面倒を見ることを強いられる。戦闘員はともかくその妻たちを被害者とする向きは少なくない。イギリスの中東専門サイトは「**反抗と後悔、祖国へ帰還の希望を失う IS の花嫁**」と題した IS 女性たちへ同情的記事を公開した[17日、ミドルイーストアイ]。先月の報告書で触れたようにバングラ系イギリス人女性シャミマ・ベガンの身勝手な言動が世界に発信されたことで同情的な考えを改めた人は多い。IS 女性たちは性奴隷にされたエジプト女性と異なり自発的に IS に参加した。彼女らは銃後を守ることで間接的に IS のテロ行為に加担してきたことは見逃せない。IS 女性たちが 21 日**難民キャンプで暴動を起こすという事件**も起きた[24日、タイムズ]。きっかけはシリア出身者がイラク出身の IS 女性に性的虐待を試みたことであった。怒った IS 女性たちは「神は偉大なり」と叫びながらその男性の「石打ち刑」を始めようとし、騒ぎに乗じてキャンプ内の放火に及んだ。IS 女性はこれまでも記者に SDF から支給された飲料水を打ち付ける等凶暴性を見せつけてきた。同上を誘う涙を交えた演技ではなくこのような本性にこそ目を向ける必要がある。

SDF はできるだけ外国人戦闘員を追放しようと努める。SDF はさらに**多くの外国人戦闘員をイラクに引き渡す方針**だ[11日、ルダウ]。クルド人の IS 戦闘員の存在がある。SDF 現地指揮官によれば、多数のイラク出身のクルド人戦闘員がいる。クルドコミュニティは IS に屈することはなかったが、一部の無思慮な若者はテロ組織に加わった。SDF はクルド人捕虜を KRG に引き渡すことになる。結果的に IS 戦闘員を送り出してきたヨーロッパ各国は国籍をはく奪するという責任逃れをしようとする。ドイツ政府は **IS に参加した人々はからドイツ国籍をはく奪する方針**だ[3日、NTV]。SDF は IS 戦闘員に関する負担を現地に押し付けるべきではなく、国際社会の協力が不可欠だと訴えてきた。北シリア当局は 25 日、**IS 関係者を裁くための国際法廷設置を要求する声明**を発表した[26日、AFP]

SDF の手から逃れた IS 敗残兵はトルコに避難しようと努力する。クルド系メディアは **IS 捕虜にインタビューを行いトルコから送り込まれたという証言**を伝えた[6日、メソポタミア通信]。トルコに行けば有志連合の追及から逃れ、戦闘意欲がある者はあわよくばトルコ傘下のイスラム主義集団で再度戦闘員となることができる。マンビジュでは 16 日から 18 日にかけて**トルコに逃れようとする IS の敗残兵の一団と SDF が交戦**した後に、これらを逮捕する一幕もあった[18日、シリア人権監視団]。

11 Improvised Explosive Device



## ユーフラテス東岸地域

### トルコ軍侵略の危機

トルコはシリアとの国境地帯に部隊を展開しエルドアンによる北シリア侵攻のゴーサインを待つ。トルコはISとクルド双方を掃討できると豪語する。トルコはISが全盛期の時に何一つ有効な対策を取らず野放しにしてきた。クルド人が勢力を拡大して初めて「ユーフラテスの盾」を発動した。トルコ副大統領オクタイは7日、ロシア製対空ミサイル購入に関する発表の中で、[ISと打倒できるのはトルコだけと発言](#)した[7日、アナトリア通信]。「ユーフラテスの盾」での苦戦を思い起こせばトルコの自信満々な発言は虚勢であることは言うまでもない。さらに踏み込むとISのことをよく知っているような口ぶりであることに気づかされる。安全保障関係メディアは18日、[ISの「トルコ大使」であったモロッコ出身者の証言](#)を伝えた[18日、情況]。彼はトルコの安全保障部門に関わるあらゆる高官と面会することができたそうである。彼の任務はトルコに入国した外国人戦闘員をシリア領内に送ることであり、そのためのトルコ軍、諜報部門関係者との打合せはトルコ領内の事務所で行われたという。対IS有志連合に参加する各国首脳や高官もトルコとISの関係は公然の秘密として知らない振りをする。トルコ軍が2015年ロシア軍機を撃墜し両国の対立が高まった折には、プーチンは衛星写真も持ち出してトルコとISの関係を証明しようとした。トルコと対立関係になくともこの秘密に公然と触れる首脳はいる。チェコ大統領は19日、[国内訪問中にトルコはISの事実上の同盟相手との考え](#)を明かした[19日、スポーツニク]。前述のトルコ副大統領の発言における「トルコだけ」の意味はトルコはISを利用していただけから、用済みになれば始末できるということか。ISもまたトルコを利用していたのであり、トルコ軍と諜報部隊の内情を知っていると見られる。クルド人を掃討してもISはトルコ傘下の傭兵勢力同士の対立に介入して、トルコのシリア支配を揺るがすことになる。

### 安全地帯

トルコは北シリアからクルド人勢力を掃討し安全地帯を設置すると主張する。トルコは単独での安全地帯管理にこだわる。クルド側はいかなる形においてもトルコの関与を絶対に認めない構えであり、アメリカもトルコの主張を容認しない方向だ。トルコが目論見通りに物事が進まない中、懸念材料がアメリカ主導の飛行禁止区域の設定だ。エルドアン政権寄りのトルコメディアは[アメリカ軍がSDFに対空兵器を供与](#)したと報じた[7日、新たな夜明け]。トルコはPKK掃討ため自国領内とイラクでは空爆を行っている。SDFが防空体制を整えればトルコ軍の空の優位性がシリアでは完全に封じられることになる。また、アメリカ軍は安全地帯が成立したら本隊の撤退後も[部隊を残す方針](#)である[27日、クルディスタン24]。トルコはアフリン同様北シリアを単独で支配し、クルド人を追放し同化政策を進めたいのだから望みが薄い。

仮にトルコ主導の安全地帯が成立したらいかなる状況になるか知るには、北西部イドリブの状況を見ればよい。イドリブではハマとの境界線に非武装地帯が成立しているが戦闘は絶えない。ヌスラ戦線は勢いを増しトルコ傘下の「穏健派」連合「祖国解放戦線」を脅かしている。トルコ軍部隊は8日、[非武装地帯内の](#)

警備活動を実施した[8日、TRT]。同地では内戦開始以来初めてのことであった。アサド政権とヌスラ戦線双方への威嚇が目的であった。ヌスラ戦線はトルコの介入など意に介してないようである。ジハーディストたちは11日、非武装地帯からアサド政権軍を攻撃し死者が出た[12日、シリア人権監視団]。ジハーディストに対する暗殺も相変わらず続く[23日、シリア人権監視団]。トルコが支配するところに混沌が広がるというのが現実だ。

## マンビジュ Minbic

### 相次ぐテロ攻撃

トルコがマンビジュ侵攻を表明してからテロが相次いでいる。SDFの一員であるマンビジュ軍事委員会(MMC<sup>12</sup>)は治安維持。MMCは3日、マンビジュ市内でテロを計画していたトルコ傘下の潜入分子を逮捕したと発表した[3日、MMC]。それでも国家を背景にした組織的テロ攻勢は防ぎきれない。マンビジュ南東の道路上に開かれた市場で9日、自爆テロが発生した[9日、ハワルニュース]。



大きな被害は出なかったようだが治安の攪乱には十分な成果だ。ISがこの攻撃の犯行声明を出した[9日、クルディスタン24]。マンビジュはトルコの最優先目標だけに、前述のIS潜入分子問題の中心地となる。テロリストは警備が手薄で人が集まるところを狙う。25日夜には、アレッポからマンビジュに至るチェックポイントで男が銃を発砲しMMC兵士7人が死亡した[26日、シリア人権監視団]。MMCはこの一件について、トルコの傭兵はマンビジュから離れた郊外を狙ったとの見解を発表した[27日、MMC]。

### 邪魔なアメリカ軍部隊

アメリカ軍部隊はトランプによる撤退表明後もマンビジュ防衛を継続している。MMCはSNSにアメリカ軍車両や部隊を度々登場させている。MMCは27日、SDFとトルコ側勢力の境界線であるサジュール川に位置する村の陣地で警戒にあたるアメリカ兵の動画を公開した[27日、MMC]。アメリカ軍がトルコとその傘下勢力の挑発を警戒していることを示す。トルコはアメリカ軍の撤退が反故にされたことでマンビジュ侵攻を一旦諦め、傘下勢力やIS潜入分子を利用しマンビジュの治安を攪乱する作戦に出た。トルコはアメリカにマン

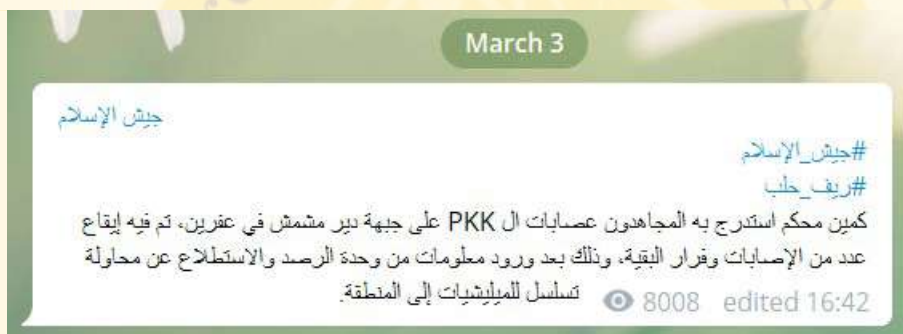
<sup>12</sup> 英語名 Manbij Military Council の略。クルド語では Meclîsa(会議) Leşkerî(兵士) ya Minbicê(マンビジュ)。彼ら自身はアラビア語名 almajlis(会議) manbij leaskari(兵士)を用いる。正式名称は「マンビジュ並びに郊外防衛のための軍事委員会」。

ビジュから SDF 関連勢力を追放し共同防衛を持ちかけている。マンビジュの情勢が悪化し MMC と少数のアメリカ軍部隊の手に負えなくなることで、トルコ軍部隊を介入させる機運を作ろうとしているのだ。

## アフリン Efrîn

### アフリン占領 1 周年

今月でトルコによるアフリン占領は 1 周年を迎えた。シリア人権監視団は「[人口分布の変更、不法占拠、略奪、人身売買、歴史の抹殺、多数の住民追放、経済基盤の破壊、武力威嚇、脅迫の 1 年](#)」と総括した[19 日、シリア人権監視団]。トルコはテロ組織を掃討し平和を達成したと主張するが、アフリン市民にとってはこれまでの平和と安全を奪われトルコ傘下勢力の犯罪に怯え続けた 1 年であった。このような状況下でクルド人による抵抗運動は激しさを増している。ゲリラ部隊により[トルコ傘下勢力の警察署に対する爆弾攻撃、占領 1 周年日に合わせた爆弾攻撃等](#)が遂行された[24 日、シリア人権監視団]。先月でトルコ傘下勢力もゲリラ攻撃の被害は認めている。トルコ傘下勢力の一つイスラム軍は 3 日、「[PKK](#)」による攻撃で被害が出たことを発表した[3 日、イスラム軍]。



イスラム軍は本来ダマスカス郊外を拠点にしていたが、2018 年前半にアサド政権に敗北した。アサド政権のお情けにより北に敗走を許されトルコ軍傘下に入ったよそ者だ。31 日にはクルド人ゲリラの攻撃で[トルコ軍兵士 3 人が死亡](#)したと伝えられた[31 日、ハワルニュース]。トルコ側も少なくとも [1 名の死亡を認](#)めている[31 日、バスニュース]。

トルコはアフリンに隣接するアサド政権側支配地域がクルド人ゲリラの前線基地と見ている。1 月下旬にはアザズに砲撃を行った。トルコ国防省は 5 日、[タルリファットから YPG の攻撃があり応戦したと発表](#)した[5 日、ニュース 7]。トルコはロシアの許可を得てアフリン侵攻に踏み切った。クルド人ゲリラの抑止においてもロシアに頼ろうとする。トルコ国防省は 26 日、[タルリファットにおいてロシア軍部隊と共同で警備活動を実施したと発表](#)した[26 日、アナトリア通信]。

SDF は IS 壊滅後の目標としてアフリン解放を検討していることを明かしている。民主統一党(PYD<sup>13</sup>)元共同代表サリフ・ムスリムは、17 日埼玉秋ヶ瀬公園で行われたネウローズ祝祭において、集まった在日クルド人達に通話アプリでリアルタイムに声明を発表した。

13 PYD—民主統一党のクルド語、Partîya(党) Yekîtiya(統一) Demokrat(民主)の略。

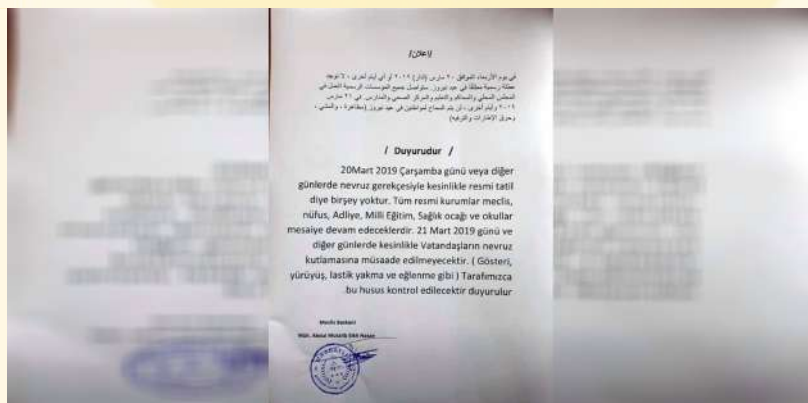


アフリンで継続されている抵抗運動を称賛し本格的な解放作戦についても言及した。PYD は 18 日、[アフリンの占領はシリアにとって重大な問題だとする声明](#)を公表した[18 日、PYD]。トルコの占領から解放されない限り混乱は収まらずシリア内戦も終結しないというものだ。

## アラブ系住民の入植

トルコ国営通信はアフリン占領 1 周年の成果として [30 万人のシリア難民帰還を達成](#)したとする記事を掲載した[20 日、アナトリア通信]。このシリア難民はアフリンの住人ではなく入植と表現するのが正しい。トルコの傀儡政庁アフリン市政評議会は、[パレスチナ人の住民登録を開始](#)したと伝えられた[12 日、vdcnsy]。

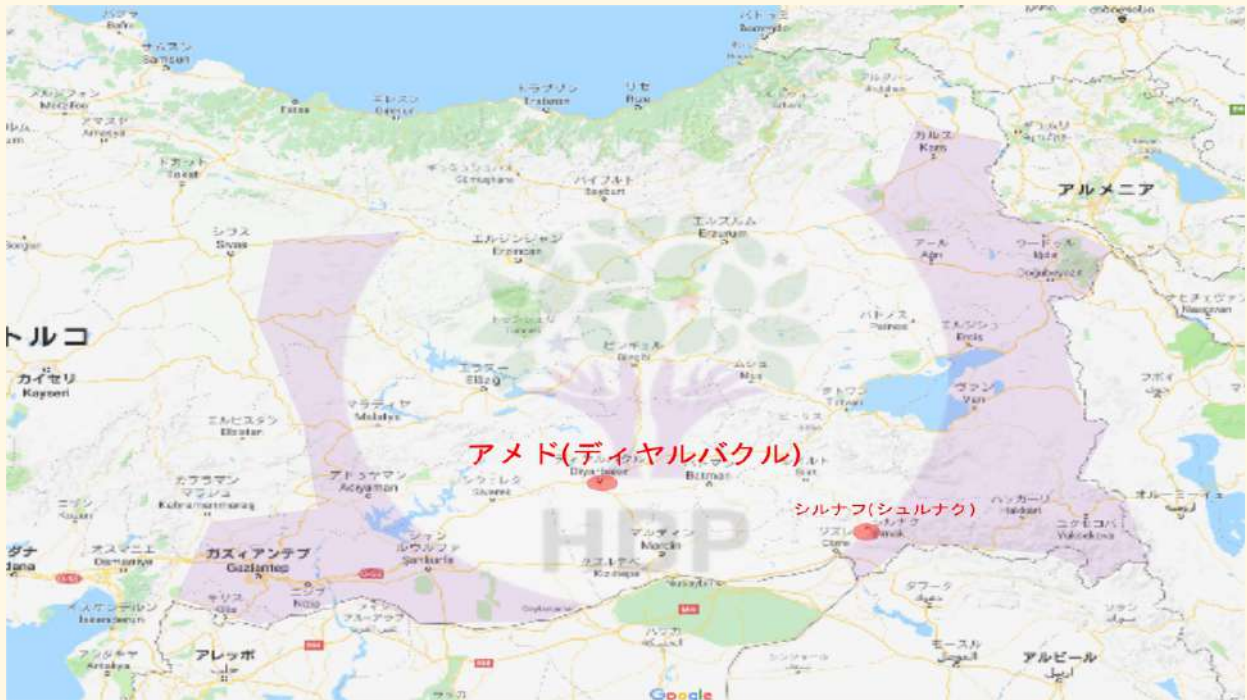
アラブ系住民の入植と並行して遂行する民族浄化政策がクルド文化の否定だ。トルコの傀儡政庁アフリン市政評議会は、[21 日にネウローズ祝祭を禁止する議長の署名付き布告](#)を行った[17 日、ハワルニュース]。



ネウローズ前日にトルコ傘下の傭兵が市民を逮捕していたとの目撃情報も報告された[21 日、シリア人権監視団]。ネウローズを祝うために焚火の用意をしていたことが逮捕の理由とされている。アフリンから追放されたクルド人住民は隣接するシャフバでネウローズを祝福した[20 日、ユーフラテスニュース]。トルコのクルド文化否定に対するささやかな抵抗となった。

# 北クルディスタン（トルコ領南東部）

## Bakurê Kurdistanê



## 統一地方選挙



### 政権与党の苦戦

今月 31 日は全土で知事と地方議員を選出する統一地方選の投票が行われる。エルドアン率いる公正発展党 (AKP<sup>14</sup>) はメディア、治安部門を私物化してもなお今回の選挙での苦戦は明らかだ。いくら反クルドで団結を呼びかけたといえども、そのクルドとの対立が引き起こしたアメリカとの関係悪化による経済低迷は有権者の生活を直撃している。エルドアンは黒海沿岸のリゼでの演説でインフレを撲滅できると宣言した[2 日、トルコ新聞]。エルドアンの娘婿で財務相アルバイラクはトルコは最悪の状況を脱しつつあると発言した

14 トルコ語の党名、Adalet (アラビア語で公正) ve (と) Kalkınma (進歩) Partisi (党) の略

[11日、アナトリア通信]。トルコ経済に客観的な指標はトルコ経済の後退を示している。トルコ統計局が11日発表したところによればトルコ経済は2018年の第4四半期に2.3%縮小した[11日、ミドルイーストアイ]。その前の第3四半期は1.6%縮小していた。トルコは未だ穏やかであるが経済危機にあると言える。HDPがCHP—いい党連合に妥協したことでAKPはそれぞれの選挙区において野党票の分散は期待できない。HDP共同代表ペルヴィン・バルダンはイスタンブルのエセンユルト地区での演説において支持者にCHP候補者への投票を呼びかけた[14日、新たな夜明け]。HDPの支持者の中にはCHPやいい党に投票するくらいならボイコットするという人が多い。CHPはAKPよりもクルド人弾圧を行ってきた政党であり、AKPがHDP議員から不逮捕特権をはく奪した際には賛同した。HDP指導部はたとえCHPやいい党がいいところ取りをする結果になろうとも、AKPに打撃を与えることを選んだ。デミルタシュは過去を一旦忘れ投票に向かうよう呼びかけた[29日、トルコ詳報]。

AKPは詐術と並んで選挙運動においてもクルド対策に力を入れる。クルド弾圧の内相スレイマン・ソイルはアメドでの演説でクルド人を前に「我々は偉大な文明の孫」とムスリムとしての団結を訴えた[2日、ノルディックモニター]。AKPはアグリ<sup>15</sup>(アララット)でモスクの尖塔から選挙放送を流したと伝えられた[18日、メソポタミア通信]。エルドアンは1日遅れでネウローズの挨拶をトルコ語とクルド語でツイートした[22日、@RT\_Erdogan]。



ネウローズ祭到来に際して友好の挨拶を致します。  
誇り高き我が共同体が幸福であり、全ての民衆が  
温かい心であるよう、祈り申し上げます。

レジェップ・タイップ・エルドアン

一方昨年の同時期には同様のツイートはなかった。非常に分かりやすい選挙対策だ。

## 選挙妨害総動員

AKPは前回の選挙同様クルド系政党HDPを徹底的に標的にする。HDP共同代表セザイ・テメリは選挙に関する声明の中でエルドアンはクルド人を侮辱し、存在を否定したことを謝罪すべきと述べた[1日、ルダウ]。エルドアンは素早く反応した。エルドアンは2日、黒海沿岸のトラブゾンでの演説において、トルコにHDPの居場所はないと発言した[3日、クルディスタン24]。クルディスタンを愛するならイラクのクルディスタン地域へ行け、とも発言したとされる。テメリがクルディスタンの言葉を使ったことへの意趣返した。テメリがテロ容疑で逮捕される可能性が生じた。1月末の選挙集会における発言を「テロ組織の宣伝に加担した容疑」として捜査が開始された[19日、アナトリア通信]。少なくとも今月中に逮捕されることはなかった。AKPはHDPの選挙運動を遂行する上での「戦力」を削ぐため、恣意的なHDP党員の摘発を強化した。アメドで8日、警察がHDP事務所を襲撃し建物に破壊行為を働き7人を逮捕した[8日、メソポタミア通信]。摘発されたHDP

関係者はオジャランの孤立化に反対を表明していた。メルシンで18日、[HDP 青年組織にテロ容疑で捜査を行い15人が逮捕された](#)[18日、TRT]。20日にはワンで、[HDP 現地代表含め23人が摘発された](#)[20日、ユーフラテスニュース]。AKPはCHPやいい党にも多くのPKK候補者がいると主張している。一方で彼らに摘発の手が伸びることはない。

粗探しに必死な与党はPKK指導部の僅かな声明をプロパガンダにする。AKP報道官は10日、[PKKはプロパガンダ放送で野党連合を支持を表明していると発言した](#)[10日、真実の先]。PKKは汎クルド勢力として現実的な戦略を支持しているだけだ。

選挙後にも懸念が残る。内相ソイルは25日、改めて[PKK関係者に当選資格はないと表明した](#)[25日、アナトリア通信]。「PKK関係者」というのは政府の恣意によって決まる。HDP候補者が当選しても結果を政府が覆す可能性を示唆する。

なりふり構わないAKPは選挙規則も無視する。ワンではAKP青年団体代表が[武器を持って有権者宅を訪問しAKPに投票するよう脅迫した](#)という報告もでている[15日、ユーフラテスニュース]。トルコでは投票日直前になると選挙運動が禁止される。AKPはこれを無視し[有権者に投票を訴えるショートメールを送っていたことが明らかになった](#)[31日、国民テレビ]。いい党議員は[野党のみに禁止が適用されるのはサダム・フセインのバース党と同じだと批判するツイート](#)をした[31日、@LutfuTurkkana]。

## 投票日

前回の選挙程ではないがAKPによる投票日当日の組織的な選挙違反行為は見られた。アメドでは警察が[選挙監視員を投票所から締め出した](#)ことが報告された[31日、メソポタミア通信]。シャンウルファでは[外部から来た警察官が投票を行う姿が目撃された](#)[31日、メソポタミア通信]。その他多数の違反行為や疑惑が報告された。

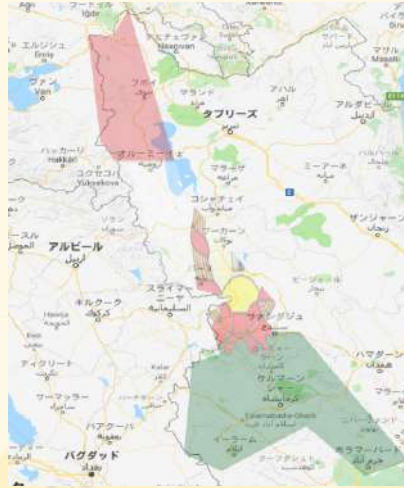
厳しい状況下でもHDPは選挙戦を懸命に戦い抜き、現地時間17時の投票終了後に早速幾つかの都市では捷報がもたらされた。アメドではHDP支持者たちが当選速報が出る前から党事務所前に集まり始めた。



HDP候補者の当選が確定し[勝利宣言](#)がなされると興奮は最高潮に達した[31日、メソポタミア通信]。勝利が確定したジズレ、バトマン、カルス、ヌサイビンでも[夜遅くまで勝利が祝われた](#)[31日、メソポタミア通信]。

# 東クルディスタン(イラン領西部)

## Rojhilata Kurdistanê



### トルコとの連携

イランはトルコと反クルドで共闘するのか。トルコはこれまで最大の同盟国であったアメリカとの関係悪化や、ロシアが主導するアメリカ抜きシリア和平に参加したことでイランと接近してきた。トルコ内相スレイマン・ソイルは18日、[イランと協力しトルコ南東部国境地帯で対PKK掃討作戦を遂行したと発表した](#)[18日、アナトリア通信]。一方のイラン側は[写真や詳細等を明らかにしておらず](#)、イランの協力には疑問の声が上がる[20日、アメリカの声]。イラン国営通信は25日、[トルコがイラン産天然ガスの輸入増を検討している](#)と報じた[25日、ロイター]。経済的利益のためトルコに表面上協力しているだけなのかは今後の経過を注視する必要がある。

### クルド人労働者の虐殺

先月コルバルへの攻撃の報告はやや少なめであった。今月はまた「平常運転」に戻ったようである。イラン軍は3日、3つの場所で別々にコルバルへの攻撃を行い[1人を死亡、2人を負傷](#)させた[3日、日報]。先月17歳の少年が雪山で凍死するという痛ましい事件が起きた。またしてもいたいけな若者が犠牲になった。16歳の少年が12日に、[雪山の中で行き倒れとなり帰らぬ人](#)となった[12日、日報]。クルド人はイラン国境警備隊にコルバル虐殺の報復とも言える攻撃を遂行した。クルド系反政府勢力とイラン国境警備隊は17日、バネ付近で交戦し[イラン兵1名が死亡](#)した[18日、ルダウ]。2日前の15日にはマリワンでも戦闘が発生していた。バネやマリワンといえばコルバルが度々攻撃されてきた地域だ。

文責：一般社団法人日本クルド友好協会 研究員 並木宜史